

主 題：絶望の中にあつて（1）

聖書箇所：詩篇42篇

私たちは心の中に葛藤があります。正しいこと、真理が何かを知っているのに、感情がコントロールできないために苦しんでいる、そのような状況に陥ってしまうことがよくあります。

パウロの経験を見てみましょう。2コリント11:23-28「彼らはキリストのしもべですか。私は狂気したように言いますが、私は彼ら以上にそうなのです。私の労苦は彼らよりも多く、牢に入れられたことも多く、また、むち打たれたことは数えきれず、死に直面したこともしばしばでした。ユダヤ人から三十九のむちを受けたことが五度、むちで打たれたことが三度、石で打たれたことが一度、難船したことが三度あり、一昼夜、海上を漂ったこともあります。幾度も旅をし、川の難、盗賊の難、同国民から受ける難、異邦人から受ける難、都市の難、荒野の難、海上の難、にせ兄弟の難に会い、労し苦しみ、たびたび眠られぬ夜を過ごし、飢え渴き、しばしば食べ物もなく、寒さに凍え、裸でいたこともありました。このような外から来ることのほかに、日々私に押しかかるすべての教会への心づかいがあります。」、また、使徒16:19-25「彼女の主人たちは、もうける望みがなくなったのを見て、パウロとシラスを捕え、役人たちに訴えるため広場へ引き立てて行った。

そして、ふたりを長官たちの前に引き出してこう言った。「この者たちはユダヤ人でありまして、私たちの町をかき乱し、ローマ人である私たちが、採用も実行もしてはならない風習を宣伝しております。」群衆もふたりに反対して立ったので、長官たちは、ふたりの着物をはいでむちで打つように命じ、何度もむちで打たせてから、ふたりを牢に入れて、看守には厳重に番をするように命じた。この命令を受けた看守は、ふたりを奥の牢に入れ、足に足かせを掛けた。真夜中ごろ、パウロとシラスが神に祈りつつ賛美の歌を歌っていると、ほかの囚人たちも聞き入っていた。」。パウロは困難の中にあつても、不平不満をもつことがありませんでした。絶望の中にあつても希望を失うことがなく、「神に祈りつつ賛美して」いたのです。

感情がコントロールできないで、正しい知識、真理との相克に悩み苦しむことは私たちの常です。困難の中にあるとき、特にこのような状況が起こります。神にあつては、絶望することより希望をもつことができると知っているのに、感情に支配されていく私たちです。この詩篇42篇、続く43篇は、心の葛藤によって絶望のなかにある著者が、希望を見出して行くそのすべを私たちに教えています。ごいっしょに学んでゆきましょう。

☆42:1-5、彼（著者）の絶望

神に引き離されていると感じるとき、1節は絶望の中での神への訴えです。鹿が谷川の流れを慕うのはのどが渇いているからです。満たされている状態ではありません。渇きが極限の状態なのです。その中で神に訴え、求めるのです。それは、神が生けるお方であり、その渇きをいやし、満たしてくださると知っているからです。

この渇きの原因は何でしょう？2-3節、神の御前に出ることができない、神の臨在を覚えることができないのです。鹿が谷川の流れを見つけることができないように…。この谷川の流れの代わりに彼には、自分の涙が食べ物となりました(3節)。彼の周りには敵がいたのです。嘲られ、罵られているのです。「おまえの神はどこにいるのか」と…。著者は絶望の中でも何とか希望の灯を見いだそうとしています。

4-5節、著者は昔のことを思い起こしています。神殿において人々といっしょに礼拝していたその喜びの日を…。自分の思いを変えようとするのです。「わがたましいよ。」と全身全霊に呼びかけています。「なぜ絶望しているのか、…思い乱れているのか、」と。「神を待ち望め、」と意志が感情に語りかけるのです。希望をもちなさい、と。

☆42:6-11、絶望の中に希望を見出そうとする

6節、著者はまだ絶望のいますが、期待、希望へと移って行くのです。神を思い起こそうとします。「ヨルダンとヘルモンの地から…」、これらの地で神とのすばらしい交わりをもったのでしょう。激流のように私の周りの状況は私を飲み込んでゆく、その葛藤の中にいる、と。8節には、彼の心には絶望があるけれど、神に期待をし、求めています。神の恵み、その誠実さが私を包む…と。9,10節は彼の祈りです。今の私を知ってくださいと祈り求めています。「わが巖の神に」、神が不動の避け所であると言います。この神によって、苦しみから解放されるのだと。心の葛藤の中にあつて私はどちらに進んで行くのでし

よう？

11 節には同じことばが繰り返されます。絶望の中にとどませようとする力に勝利することができる、と知りつつ、なお葛藤の中にある著者です。

続く次の 43 篇では、絶望の中に見出そうとしている希望が、確信へと変わって行くのです。